

1. 日本病理学会誌第106巻2号(学会抄録号)について

1) 抄録集は会員システム内からPDF版がダウンロード可能です。会員各位におかれては、会員システムにログインの上、上のタブの左から5つ目の「各種ダウンロード」のタブから「学会誌ダウンロード」をクリックして下さい。

ログインはこちら

<https://member.pathology.or.jp/product/Cmn/WapCmn01P01.aspx>

2) 会員管理システムへのログインをまだ行っていない会員におかれては、7月20日付記事「会員システムの導入について」を参照の上、手続きをお願いいたします。

<http://pathology.or.jp/news/whats/info-system.html>

3) 会場では簡易小冊子(ハンディ版)を無料でお配りします。

4) 名誉会員・功労会員の先生方には、PDFデータをUSBメモリの形で郵送いたします。

5) 冊子体(印刷物)抄録集は有料となります。東京総会会場にて販売いたします。

会員は1冊1,000円、非会員は2,000円です。

6) 冊子体の郵送送付を希望の方は下記に従いお申し込みください。

① 申し込み・問い合わせ先

日本病理学会事務局 担当: 板羽

E-mail jsp-admin@umin.ac.jp

② 申し込み方法

「日本病理学会誌106巻2号購入希望」と件名に明記の上、以下の情報をe-mailにてお送り下さい。

(1) 会員番号(非会員の場合はその旨を記載)

(2) 氏名

(3) 所属

(4) 冊数

(5) 送付先 ※会員は原則学会登録住所宛となりますので不要です。

③ お支払

冊子に郵便振替用紙を同封しますので、到着から2週間以内に郵便局よりお振り込み下さい。請求書払等を希望される場合はその旨、お申し込み時にお知らせ下さい。

2. 病理専門医資格更新基準改定についてのお知らせ

平成29年2月の専門医機構の理事会において新整備指針が改定され、現時点で専門医有資格者の更新は、昨年までに比べ大幅に緩和されることになり、病理学会でもそれに対応して更新基準の緩和をしました。

詳細はホームページ(会員専用 UMIN ID 利用)にてご確認をお願いいたします。

https://center6.umin.ac.jp/oasis/pathology/news/kaitei_170926.html

3. 会員システムのログインID変更機能の追加について

今までは会員番号でのログインのみでしたが、9月19日(火)12:00より、会員番号の他に自由に設定したログインIDでログインできるようになります。任意のログインIDを設定した場合、会員番号と任意設定のIDのどちらでもログイン可能となります。

ログインID変更方法

<http://pathology.or.jp/news/20170907id.pdf>

4. 「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」公開

近年、悪性腫瘍の病理組織・細胞検体を用いた体細胞遺伝子検査は急増しており、今後は次世代シーケンサーをはじめとする新規技術を用いたゲノム診断の臨床導入が見込まれています。一般社団法人日本病理学会では、ゲノム等オミックス研究に適した質の高い病理組織検体を全国のバイオバンク等で収集できることを目指し『ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程』(研究用規程)を2016年3月に策定し、我が国の病理医・臨床医・臨床検査技師・バイオバンク実務者における病理組織検体の取扱い指針を示しました。これに続き本学会では、今後日常診療下での実施が想定されるがんゲノム診断での使用に耐えうる病理組織・細胞検体に関する『ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程』(以下、診療用規程)を策定しました。本診療用規程では、病理検体の中でもゲノム診断のために最も利用が見込まれるホルマリン固定パラフィン包埋(formalin-fixed, paraffin-embedded; FFPE)検体の適切な作製・保管方法について示しました。本診療用規程が既にも実際の診療にゲノム情報を用いている医療機関のみならず、日常業務下で作製される病理検体が今後のゲノム診断に供される可能性のあるす

すべての医療機関の病理医や病理技師、さらには検体採取にかかわる臨床医を対象とした実用の書となるようにしました。本診療用規程は、日本病理学会およびその他関連学会が行うがんゲノム診療従事者向け教育・研修プログラムでの教育ツールとしても利用される予定です。本診療用規程が、今後本格的にゲノム診断を用いた病理診断および日常業務の一助となることを期待いたします。なお、実証データにつきましては、このHP掲載版は暫定版とさせていただきます。今後実証データ等の精査を行って確定版を発出する予定です。

平成 29 年 9 月 15 日

ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程策定ワーキンググループ

小田義直（座長）、落合淳志、金井弥栄、森井栄一、
桑田 健、畑中 豊

「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」(PDF)

<http://pathology.or.jp/news/whats/genome-kitei-170915.html>

5. 第 11 回診断病理サマーフェスト 病理と臨床の対話開催報告

埼玉医科大学国際医療センター病理診断部 新井栄一
(第 11 回 診断病理サマーフェスト世話人)

今回の「診断病理サマーフェスト」は「皮膚病理診断研究会」との共催という形をとって、2017 年 9 月 2 日（土）、3 日（日）に東京大学伊藤謝恩ホールにて開催しました。最終的な参加申し込みは 366 名で出席が 339 名、欠席は 12 名、事前キャンセルは 15 名でした。さらなる内訳は、一般 229 名、研修医・大学院生 122 名でした。講師およびサマーフェスト委員が 20 名、皮膚病理診断研究会と東大のお手伝いの先生が 11 名で、会場には 370 名がいたこととなります。

今回のテーマは「皮膚の炎症性疾患」でありました。病理医になじみの少ない皮膚の炎症性疾患の病理所見について、これから病理専門医を目指す方達を念頭に分かりやすく解説することを目的としました。講習会の時間内では理解しきことは難しいので、後に繰り返し勉強できるようにハンドアウトの充実を図り、実際の標本の病理診断報告書をどう書くかについてバーチャルスライドを用いて説明をしました。

会場の入場は、受付のための書類を事前に記入してきてもらう方式をとり、比較的スムーズでした。会場の設営と終了時にもとに戻す作業は、皮膚病理診断研究会の面々と東大の若手の方々、牛久先生の協力により、スムーズにできました。

最後に、御参加の皆様、病理学会事務局、サマーフェスト委員の皆様、皮膚病理診断研究会と東大の先生方、ご講演を頂きました諸先生に感謝申し上げます。

【プログラム】

平成 29 年 9 月 2 日（土）

1. 炎症性皮膚疾患診断のための皮膚組織の理解
(今山修平クリニック & ラボ 今山秀平)
2. 海綿状パターンを呈する疾患
(鳥取大学、皮膚科教授、山元 修)
3. 乾癬様パターンを呈する疾患
(日本医大、皮膚科教授、安齋眞一)
4. 苔癬様および空胞様パターンを呈する疾患
(埼玉医大、皮膚科教授、土田哲也)
5. 偽リンパ腫、脂肪織炎、沈着性疾患、その他
(カロリンスカ大、病理科、後藤啓介)

平成 29 年 9 月 3 日（日）

6. 脱毛症 および毛包系疾患
(福岡大、病理学講座、古賀佳織)
 7. 水疱・膿疱を形成疾患の病理診断
(福本皮膚病理診断科、福本隆也)
 8. 真皮の組織球性、好中球性、好酸球性疾患、皮膚の感染症
(京都府立医大、皮膚科、浅井 純)
 9. 皮膚血管炎と血管炎を伴わない炎症性血管病変の病理と臨床
(目黒陳皮膚科クリニック、陳 科榮)
 10. バーチャルによる 10 症例のみかたの手ほどき
(埼玉医科大学国際医療センター、病理診断部、新井栄一)
- 参照 HP:

<http://pathology.or.jp/news/whats/summer-171003.html>

6. 「HANSHIN 健康メッセ 2017」活動報告

社会への情報発信委員会
委員長 伊藤智雄

昨年度に引き続き「HANSHIN 健康メッセ 2017」が 8/25～27 に開催され、「社会への情報発信委員会」の重要な活動として情報発信を行いました。この企画は阪神電気鉄道株式会社が安心・安全な地域を作るため、健康に関する情報発信の一環としておこなっているもので、昨年は 1 万人以上の参加者があり、本年が 2 回目となっております。実行委員長を神戸大学副学長・理事が勤め、兵庫大学とともに 3 組織による共催となっております。阪神電気鉄道株式会社様にはかねてより「病理学」の重要性に着目していただいており、病理として様々な企画を出展することができました。メインとなるコーナーは「ミクロの世界」。本年は、最初に「社会への情報発信委員会」メンバーによる「けんびきょうでいろいろかんさつしよう」というミニ授業で、病理とはどのようなところかを子供たちにやさしく教えます。次に実際の供覧用顕微鏡を使用して様々な食物のミクロ画像を観察します。ここでは「オクラ」「イカ」「ブルーチーズ」「しめじ」などの印象的な組織像を供覧し、親子ともども大きな歓声が上がっていました。最後には「病理スケッチコーナー」。下絵に塗り絵をするという趣向で、

一生懸命に書き込む子供の姿が印象的でした。行列の場所には、本年作成した市民向け動画を流し、病理に対する理解を深めてもらいました。その他にも iPS 細胞の検鏡コーナーなども設けました。大型企画の「体験コーナー」では神戸大学臨床検査技師により、「パラフィンでつくるキャンドル」「液体窒素の実験」を行い、特に後者は会全体でも最も盛り上がるもので、まさに大歓声に包まれておりました。その他にもセミナールームにて「親子でビックリからだのひみつ」の講義も開催いたしました。

企画にあたり、委員会からは私の他、榎木先生（近畿大学）、福岡先生（長崎大学）、九嶋先生（滋賀大学）、安井先生（広島大学）、坂東先生（徳島大学）が参加し、情報発信にあたりました。さらに委員会外からも神戸大学医学部附属病院の医師・臨床検査技師、さらには筑後先生（近畿大学）には、完全なボランティアにて支援いただき、講義まで大活躍をしていただきました。本年は、最初から最後まで行列がほぼ途絶えることなく、我々の声もかすれるほどで、子供の歓声に癒されながら、有効な情報発信を行うことができました。おそらく 600 名以上の親子に講義をしたこととなります。病理への理解を深め、また、ひとりでも医学に興味を持ち、病理に進んでくれる人を増やすためにも、親子への情報発信は極めて重要だと思っております。来年も開催予定となっており、より有効的な情報発信を行ってゆきたいと思っております。

参照 HP:

http://pathology.or.jp/news/pdf/HANSHIN_messe_170915.pdf

7. 情報通信機器（ICT）を用いた死亡診断等の取扱いについて（情報提供）

厚生労働省より、「情報通信機器（ICT）を用いた死亡診断等の取扱い」について、通知がありましたのでお知らせいたします。詳細は HP をご確認ください:

参照 HP:

<http://pathology.or.jp/news/whats/ict-171003.html>

8. ニボルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（胃癌）の作成及び最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌、悪性黒色腫、頭頸部癌、腎細胞癌及び古典的ホジキンリンパ腫）の一部改正について（周知依頼）

厚生労働省より、標記について周知依頼がありましたので、お知らせいたします。

詳細は HP をご確認ください:

参照 HP:

<http://www.whoirei.mhlw.go.jp/hourei/new/tsuchi/new.html>

お知らせ

1. 第 59 回藤原賞について

標記賞につき、本学会からの推薦を希望される場合は、事前に公益財団法人藤原科学財団ホームページをご確認の上、11月17日（金）までに本学会事務局宛ご連絡下さい。

<http://www.fujizai.or.jp/download.htm>

日本医学会だより

JAMS News

2017年10月 No. 58
日本医学会

◆日本医学会臨時評議員会

6月15日(木)に臨時評議員会が開催された。

協議事項は「日本医学会役員の内」。臨時評議員会前に開催された日本医学会連合定時総会で会長、副会長、理事候補が選出されているが、臨時評議員会終了後に開催される連合理事会にて役員が決定した際は、連合の会長、副会長(3名)を日本医学会の会長・副会長に、連合の副会長1名と理事及び監事(計19名)を日本医学会幹事とすることについて審議され、承認された。

◆日本医学会公開フォーラム

第23回日本医学会公開フォーラムは「感染症とがん—感染症対策でがんを予防しよう!—」をテーマに、10月14日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催。

組織委員長は、津金昌一郎国立がん研究センター社会と健康研究センター長。詳細は日本医学会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)に掲載。

◆日本医学会シンポジウム

第152回シンポジウムは「がんゲノム医療の到来」をテーマに、11月23日(木・祝)13:00~17:05、日本医師会館大講堂において開催する。

組織委員は、間野博行、吉田輝彦の各氏。参加申込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加

費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月1日(金)に開催し、平成29年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会委員並びに特例委員が、今年度の推薦数：医学賞18、奨励賞29を審査した。

選考の結果、11月1日(水)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・骨免疫学による自己免疫疾患および骨関節疾患の研究/高柳 広(東大・免疫学)
- ・未病と予防の遺伝環境医学に関する研究/小泉昭夫(京大・環境衛生学)
- ・糖尿病病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法開発への応用/荒木栄一(熊本大・代謝内科学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・新生児消化器疾患の病態解明に向けた腸管免疫細胞の網羅的解析/澤 新一郎(北大遺伝子病制御研究所)
- ・組織幹細胞の分化・増殖機構の解明と内因性心筋再生の増幅方法開発への応用/武田憲文(東大・循環器内科)
- ・ペア型免疫受容体に着目したアレルギー疾患の制御機構解明と治療法開発/伊沢久未(順天堂大アトピー疾患研究センター)

- ・保護的ミクログリアによる血管新生から機能回復を目指す脳梗塞治療法の開発/金澤雅人(新潟大脳研究所・神経内科学)
- ・DNA修復機構を基盤とした、合成致死抵抗性腫瘍に対する新規治療法の提示/中田慎一郎(阪大・小児科学)
- ・ガングリオシドを標的とした関節軟骨損傷に対する新たな分子標的の同定/小野寺智洋(北大・整形外科)
- ・子ども期の貧困及び虐待が成人期までの健康に及ぼす影響に関する疫学研究/藤原武男(東京医歯大・国際健康推進医学)
- ・化学物質曝露が小児のアレルギー疾患に与える影響について～社会医学と臨床医学の連携による分子疫学研究～/辻 真弓(産業医大・産業衛生学)
- ・光を用いた肺がん制圧を目指して：小細胞肺癌に対する新規光線療法とコンパニオン診断システムの開発/佐藤和秀(名大・呼吸器内科)
- ・侵襲性真菌感染症に対する全国疫学調査と新規治療戦略の開発/宮崎泰可(長崎大・臨床感染症学)
- ・蛋白結合尿毒症物質に着目した慢性腎臓病関連疾患のメカニズム解明と治療法の開発—尿毒症物質の生成減少と除去向上を目指す—/山本 卓(新潟大・腎・膠原病内科学)
- ・メタボローム解析を利用した膀胱癌遠隔転移予測因子の検討/千葉斉一(東京医大八王子医療

センター・消化器外科・移植外科)

- ・前十字靭帯再建術後の靭帯折れ曲がり角度が靭帯治癒に与える影響の解明/田代泰隆(九州労災病院・整形外科)
- ・着床障害の分子機構の解析と新規診断・治療法の開発/廣田 泰(東大・女性診療科・産科)
- ・尿路上皮癌の再発時に起きるゲノム異常の解析/日向信之(神戸大・腎泌尿器科学)

◆「遺伝子・健康・社会」検討委員会

第16回委員会を8月29日(火)に開催した。

主な議題は、1. 委員会の設立経緯、現状と課題、2. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」について施設認定・登録部会からの報告、共同声明及び指針を無視して実施している施設への対応、3. 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構(JOHBCC)からの報告、4. 日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(2011)について、5. その他：ゲノム医療実現推進に向けた取り組み等である。

◆日本医学会定例評議員会

第85回日本医学会定例評議員会を平成30年2月28日(水)14:00~16:00、日本医師会館小講堂にて開催予定。主な議題は1. 平成29年度年次報告、2. 平成30年度事業計画、3. 日本医学会新規加盟学会の件、4. その他である。